

早期発見 離れた部屋にすばやくお知らせ。



### 火災の早期発見には、連動型が「圧倒的に」効果的！

火災時、すべての警報器が鳴る連動型なら、緊急事態を家中にすばやく<sup>※5</sup>お知らせ。  
高齢者の寝室から遠い和室で火の手が上がった場合でも、火災発生に気づきやすく、早期避難が可能になります。



夜中の火災…2階で寝ているときに、1階でくん焼火災<sup>※6</sup>が発生。

■各階の住宅用火災警報器が鳴動する時間を比較した当社実験データ（くん焼火災<sup>※6</sup>において、単独型・連動型を別々に実験実施）

※5) 電池式 ワイヤレス連動型の場合、約0.5~10秒。（周囲の環境によっては20秒程度かかる場合があります。）※6)くん焼火災：けむりが多く発生する火災（寝たばこなど）

高齢者や子どもが暮らす住宅（2世帯住宅など）や高気密住宅・高断熱住宅には、「連動型」がおすすめです。



■住宅火災の件数（放火を除く）及び住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く）の推移  
出典：令和元年版消防白書より  
※「住宅火災の件数（放火を除く）」については左軸を、「住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く）」については右軸をご参照ください。

※1) 親器1台、子器14台まで。（住まいのサブ親機、移報接点アダプタは、それぞれ1台で子器1台分と数えます。）※2) 障害物がない場所での水平見通し距離。※3) ピーク値。検定基準にもとづく自社測定による。

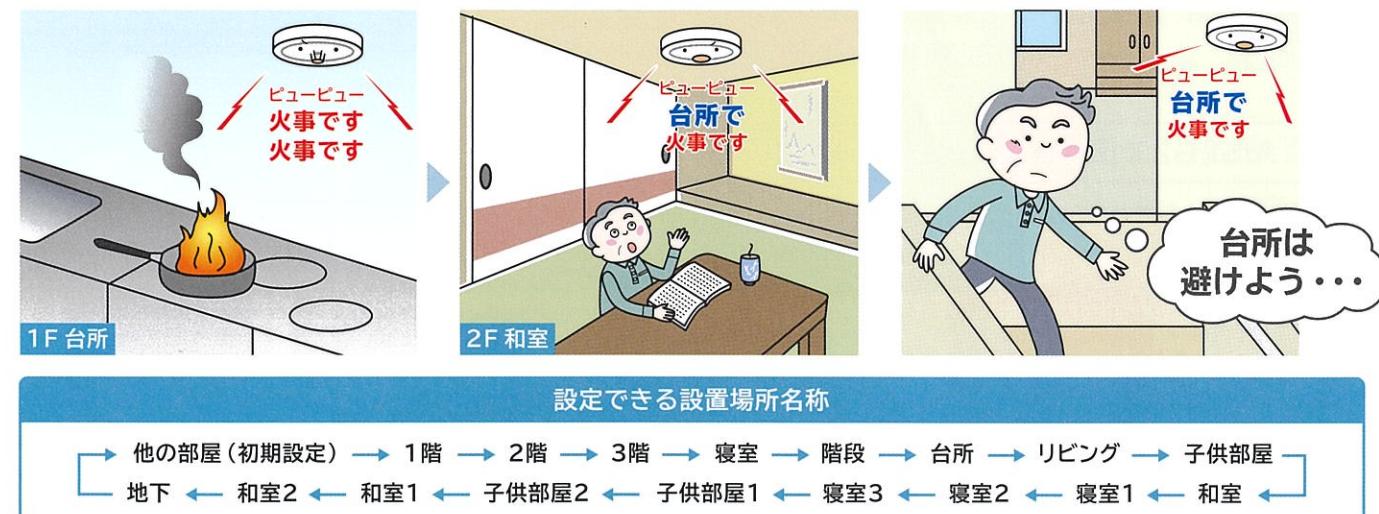
※4) 年2回の動作試験を実施した場合。電池寿命は使用条件などによって短くなる場合があります。

避難サポート 火元を部屋名<sup>※7</sup>でお知らせ。



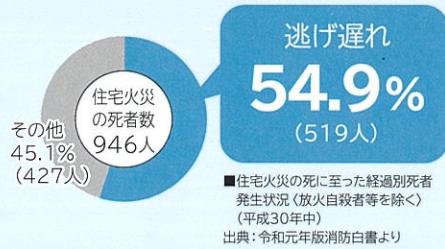
### NEW 発報時に火元を音声メッセージ（登録した部屋名称）<sup>※7</sup>でお知らせ

火災時、発報と同時に火元を特定。  
火元がすぐにわかることで、迅速な避難経路確保の手助けとなります。



※7) 親器・子器それぞれで登録が必要です。登録方法は「住宅用火災警報器 総合カタログ」をご覧ください。

住宅火災による死者数は『高齢者』の割合が高く、原因是『逃げ遅れ』が多い。



高気密住宅、高断熱住宅では…、他の部屋の警報音は聞こえにくい。  
警報音量1mにて  
約90dB  
・非常ベル  
・郊外の深夜  
・パチンコ店内同等

1階の警報音の  
2階での聞こえ方  
約30dB  
・ホテルの室内程度